平成 30 年度　企画展

「津軽の古代とは？ - 弘前市内の調査成果からみた古代 - 」

はじめに

早稲田遺跡調査風景

中央集権国家が誕生した飛鳥時代から奈良・平安時代にかけての時代を古代と呼びます。平成 30 年 9 月時点で、弘前市内には古代の遺跡が 200 か所以上存在しています。市内では平成 10 年以降開発に伴う発掘調査が増加し、古代遺跡の発掘調査事例が蓄積されてきたことで、この地で生きていた古代の人々の生活の様子や交流の様相が徐々にわかり始めてきています。

小栗山館遺跡　竪穴建物跡完掘状況

古代の生活の様相

当時の人々は竪穴建物や掘立柱建物で暮らし、集落を形成していました。竪穴建物には壁の近くにカマドを設けたものもあり、煙を外に出すため建物の外へ煙道が延びていました。カマドでは土器を使って煮炊きをしていました。水を入れた甕をカマドにかけ、その上にコメなどの穀物を入れた甑（底に穴の開いた甕のような土器）を乗せて蒸し、坏や皿に盛りつけて食事をしたのかもしれません。大きな壺や甕には、水などの液体のほか穀物などを入れて貯蔵していたようです。当時使っていた土器は、主に「土師器（素焼きの土器）」や「須恵器（高温の窯で焼いた硬い土器）」でした。また、水田でコメ、畑でマメなどを作っていました。鉄製品を作る技術があったので、鋤や鍬などの鉄製の農具も使っていたようです。

中野遺跡　（大字中野四丁目）

中野遺跡　土器集合写真

中野遺跡は、８世紀代の奈良時代の土師器が採集された遺跡です。その後、宅地開発が進んだため、包蔵地としては登録されていません。坏、片口鉢、甕があり、なかでも片口鉢は続縄文文化との関わりが深いもので、７世紀から８世紀前半まで残る特徴的な器種です。

笹森館遺跡　（大字独狐字石田）

笹森館遺跡　馬線刻画土器

笹森館遺跡は、弘前市街地から北西に約 4.5 ㎞、岩木山麓の段丘端部に立地しています。

農地造成に伴う平成 17～19 年度の市による発掘調査の結果、縄文時代、奈良時代、平安時代、中世の複合遺跡であることが分かりました。

奈良時代の遺物は、土師器の坏、甕、壺が出土しており、８世紀後半のものと考えられます。平安時代の遺物は 11 世紀代を主体とするもので、土師器や須恵器などがあり、馬の線刻画土器などの貴重な遺物が出土しました。

堤田遺跡　（大字蒔苗字鳥羽）

堤田遺跡　墨書土器

堤田遺跡は、弘前市街地から北西に約４㎞、岩木川の支流である後長根川の左岸段丘上に立地しています。

道路整備に伴う平成 15 年度の市による発掘調査の結果、平安時代を主体とする遺跡であることが分かりました。出土した土器から、10 世紀前半頃と考えられます。

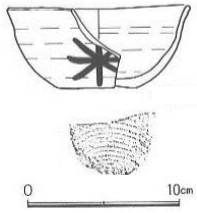
平安時代の遺物は、土師器や須恵器などのほか、祭祀遺物とされる錫杖状鉄製品が出土しています。そのほか、判読は難しいですが、県内でも数例の事例しかない、３文字の墨書土器が出土しています。

小栗山館遺跡　（大字小栗山字沢部）

小栗山館遺跡は、弘前市南部を流れる大和沢川の南岸低位段丘上に立地しています。

市道整備に伴う平成９・10・25 年度の市による発掘調査の結果、平安時代を中心とする集落の跡が発見されました。

遺構では、竪穴建物跡や溝跡、鍛冶遺構などが検出され、遺物は、土師器や須恵器、刀子（万能ナイフのような用途と考えられる小刀）などが出土しています。土師器のなかには、「寺」や「米」と墨書された土器が出土しています。



小栗山遺跡　墨書土器
（平成１０年度報告書より）

早稲田遺跡　（大字福村字新舘添、大字早稲田四丁目）

早稲田遺跡は、弘前市街地から東に約 2.5 ㎞、平川の左岸に立地しています。

土地区画整理事業に伴う平成 10・11 年度の市による発掘調査の結果、平安時代を中心とした集落の跡であることが分かりました。

遺物は、土師器や須恵器、擦文土器、中国産白磁、鉄製釘や刀子、鉄鏃（矢じり）などがあり、「米」のような記号などが刻まれた木製の刀子の柄も見つかっています。

早稲田遺跡　木製刀子柄出土状況

油伝（１）遺跡　（大字時苗字油伝）

油伝（１）遺跡は、弘前市街地から北西に約４㎞、岩木川支流の後長根川の左岸段丘上に立地しています。

市道整備に伴う平成 22～24 年度にかけての市による発掘調査の結果、平安時代を中心とする遺跡であることが分かりました。出土した土器から、10 世紀後半以降を主体とするものと考えられています。

出土遺物は、土師器や須恵器、擦文土器、鉄製刀子などであり、炭化したコメも出土しています。

油伝（１）遺跡　溝跡完掘状況

長谷野遺跡　（大字高杉字長谷野）

長谷野遺跡は、弘前市街地から北西に約７㎞、岩木山麓の台地上に立地しています。

市道改築に伴う平成 14 年度の市による発掘調査の結果、平安時代の建物跡や溝跡、土坑のほか、製鉄炉３基が見つかりました。

遺物は、土師器などのほか、製鉄炉に風を送るふいごの羽口や、鉄滓（製鉄の際にでる不純物）が出土し、鉄の生産が行われていたことが分かりました。

長谷野遺跡　製鉄炉跡

おわりに　―発掘調査でわかった古代弘前の様相―

調査では、当時一般的に使用されていた「土師器」や、弘前市内では見つかっていない専用の窯で焼く「須恵器」が出土しています。また、鉄製農具や炭化米、製鉄遺構や鍛冶遺構が発見されています。

これらのことから、当時この地域にいた人々は、中央集権国家の支配の外にあっても、日本列島のなかで隔絶していたわけではなく、農業や製鉄などの生産活動に必要な技術を持ち、他地域との交流のなかで暮らしていたと考えられます。

今回の企画展は、開発に伴い失われてしまう遺跡の記録を保存するために行われた、これまでの発掘調査の成果をまとめたものです。今回の企画展を機に、弘前市の歴史や遺跡について関心を持っていただき、文化財保護へのご理解・ご協力を賜れれば幸いです。

＊＊

【展示に関するお問い合せ先】
弘前市教育委員会　文化財課埋蔵文化財係（岩木庁舎３階）
〒036－1393　青森県弘前市大字賀田一丁目１－１　　TEL 0172－82－1642（直通）